

# 蒲郡市

## リーディング プロジェクト

GAMAGORI leading project

ニュース  
レター  
vol.02

蒲郡市では、図書館などの機能を兼ね備え、市民の居場所や活動拠点となるような場を蒲郡駅周辺に整備する「リーディングプロジェクト」を進めています。

新しい公共施設を描くには市民の声が必要です。

そこで、市民フォーラムと連続ワークショップがはじまりました！  
本紙では第2回フォーラム・ワークショップの内容をお知らせします。



### 第2回ワークショップ …P2~7

2023年2月25日（土）に、第2回ワークショップを開催しました。43人の参加者に加え、学生・専門家らのサポーターと市職員を含めると約80人程のワークショップとなりました。

冒頭、市からは「リーディングプロジェクト」の概要について説明を行いました。事例紹介の後、6グループに分かれてワークショップを行いました。リーディングプロジェクトによって実現したい未来の過ごし方について、たくさんのイメージが話し合われました。最後には各グループが話し合いの成果を発表し、全体で共有しました。



### 第2回市民フォーラム …P8

2023年1月21日（土）に、第2回市民フォーラムを開催しました。清水裕之先生（名古屋大学名誉教授、前岡崎市民会館芸術監督）の基調講演と、市長を交えたシンポジウムが行われました。

フォーラム

2022/11/5

ワークショップ

1

これからのまちと  
公共施設を考えよう！

1

こんな蒲郡にしたいナ  
-不安と希望を分かち合おう

2

2023/1/21  
文化香る蒲郡の  
公共施設を考えよう！

2

2023/2/25  
ビジョンを描く  
-こんな施設がいいな

3

ビジョンを描く

4

使いこなしを  
想定してみよう

5

基本理念、  
基本方針を整理しよう

基本計画策定

# 第2回ワークショップ当日の流れ

## 1 はじめに



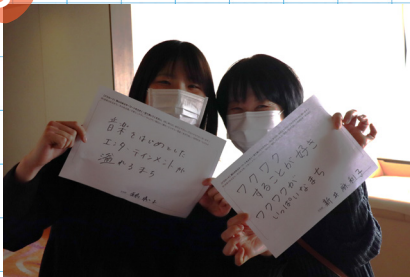
市から、リーディングプロジェクトの概要の説明を行いました。

## 2 前回のふりかえりと話題提供



ファシリテーターの名畑さんより、前回のふりかえりと、先進事例として岡崎図書館交流プラザ「りぶら」の紹介がありました。

## 3 プラカードによるグループ分け



関心の近い人同士でグループをつくるため、一人一人、自分の関心事をプラカードに記入して仲間探しを行いました。

## 4 グループワーク開始



6グループに分かれ、それぞれにファシリテーターがつけました。

## 5 写真を選ぶ



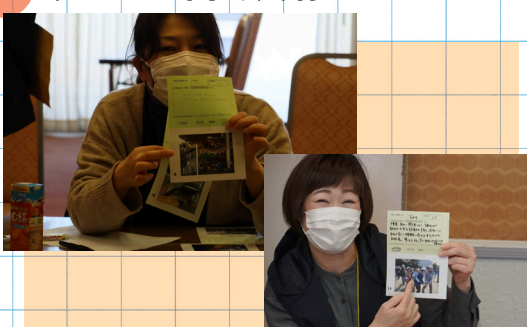
卓上にちりばめられた約50枚のイメージ写真から、各自選びました。

## 6 「すごし方カード」の記入



写真をヒントにしながら、未来のすごし方について思い描くイメージを、「すごし方カード」に記入しました。

## 7 グループ内で共有



グループの中でイメージを共有し、共通する点や、触発されたことを模造紙上にまとめ、タイトルをつけました。

## 8 全体共有



6グループが集まり、順番に発表して、全体で共有しました。

# グループワークの成果

グループワークでは写真をヒントにしながらかつて各々が未来のすごし方を想像し、話し合いました。第1回ワークショップで出た意見を元選ばれた写真や、先進事例の写真が並びました。ここでは特に人気のあった写真や共通する内容を項目ごとに整理して紹介しています。

## 体験と創造のある新しい学び



- 子どもたちにデジタルを上手く活用できるようになってほしい
- プログラミングや3Dプリンターへの挑戦などできるとよい
- 情報の手に入れ方も進歩していくべき
- 子どもたちが新しい技術を学びやすい施設がよい
- 次世代には高いレベルの技術力、想像力、コミュニケーション力が求められるため、各分野に精通した人材に相談できるような場所と仕組みがあるとよい



- 外国の料理を習って子どもたちやみんなと食べるような体験がしたい
- 畑の野菜を提供し、キッチンで子ども食堂やお料理教室を行いたい
- デジタルデトックスできる場もほしい
- 多言語が飛び交うような場がよい
- 長期休暇はゲームばかりする子どもの状況を打破したい

## 景観や自然とくつろぎのある場所



- 芝生に寝転がりたい
- 緑があるだけで涼しく感じる
- 建築物は風が通り、自然のエネルギーを取り入れたい
- 蒲郡の山とか海とか、景色を見ながらお酒を楽しみたい
- 屋外テラスで星空や風と共に食事をしながら語りたい
- 花火を見ることができたら最高
- 外に芝生広場があって、水場のある遊び場がほしい

## 内と外のつながり



- 内と外の空間がつながり、開かれているフロア
- 外にも出てにぎわいを演出する場所や階段があれば、ぼーっと座って過ごせて語りあえる
- 人通りを眺めながら、一杯のコーヒーが飲める
- 外部階段でのコンサートを楽しみたい
- 通りすがりの人も音楽にふれることのできる屋外コンサートがほしい
- 読書もできて、外で子どもが遊ぶのを見ることができる

## 子どもと大人、多様な人に役割があり、助け合いを育む



- 祭りで地域の繋がりを作り、それが防災に役立つとよい
- 障がいや年齢に関係なく、誰もが自分のできる役割を持ち、助け合える
- 地元の魅力を世代間で受け継ぐ
- 自然の木などを使い、ものづくりや火起こしなど防災スキルにもなる学びを大人と子どもと一緒に取り組む
- 公共施設は高校生以降が利用しづらいイメージがあるので用事があるとよい

- ハロウィンやクリスマスなど子どもが楽しむイベント
- 子どもにとって夢中になれること

## 図書館機能



- ・図書通帳のような子ども心をくすぐるようなシステムがほしい
- ・絵本や資格に関する本などが手に入りやすい図書館がよい
- ・子どもを預けてゆっくり本を選びたい(託児、子育て支援)
- ・開館時間が長い(24時間など)と夫婦で協力しながら図書館にいける
- ・日の当たる広々とした空間で気持ちよく使える図書館がよい
- ・ゆったり本を読んで半日くらい過ごしたい

## ふらっと寄ることができる、オープンな場



- ・仕切りのないオープンな空間で気軽に挨拶・会話・読書などができる
- ・床に座りながら気軽に交流ができる
- ・ここに行けば子連れでも気にしなくて過ごせる
- ・ざわざわしていることが許容されるような図書館がよい

- ・本を読んだり、勉強したり、パンを食べたり、喋ったり、思い思いに過ごすことができる
- ・放課後に高校生が来る。若い子も気軽に交わりたい
- ・心地よいノイズがあるから勉強、作業がはかどるのではないかと
- ・子どもと大人(さまざまな趣味や専門性のある方)の自然な関わりがあるとよい

## 本とカフェのあるざわざわとした空間



- ・家族や友達と子どもを交えてゆっくり食事やお茶ができる
- ・児童館でお昼を迎えたと一度帰ることになるので、図書館とカフェと一緒に計画してほしい
- ・カフェのような雰囲気、ドリンクを片手に読書を楽しみたい

## パーソナルスペースや小スペース



- ・パーソナルスペースを確保しつつ開放感もある場所
- ・人がたくさんいる中でも、自分の集中できる場所があるとよい

- ・便利に使える小スペースがほしい(多目的なスペースが少なく、あっても営利目的で使いにくいのが現状)

## 東三河・蒲郡全体の観光や周辺施設のハブになる



- ・港への導線があり、海のスポーツへの誘導がある
- ・ベンチアートプロジェクトなど「海がある」ことを活かした取り組みとつなぐ
- ・水族館と相互に観光で協力したり、学びを深める生命の海科学館とのつながりをつくる
- ・蒲郡らしさを生かしたマルシェを開催し、外からも来たいと思える場になりたい
- ・東三河をひとつとして広域連携し、公共施設の役割分担をしてほしい
- ・特産品の販売で市民同士の地域間交流ができる場がほしい

## アクセスがよく、回遊を楽しむことができる



- ・車以外の手段で気軽に海、山のある蒲郡を楽しめる
- ・レンタサイクルの拠点があれば観光の人など外の人が利用しやすい
- ・気軽に乗車できる月額定額制の移動手段があるとよい
- ・電気バスが走れば子ども、お年寄り、障がいのある方、観光客が移動しやすい



- ・世代、国籍を超えて多様な人が集まり、自由に時間を過ごせる

## 音楽のまちとして練習と発表の場



- ・イベントや周辺学校の音楽や演劇の発表会が催せる多目的ホールがほしい
- ・子どもの学びの発表会は場所や形式を固定したものにしたくない
- ・小中高校生の練習、発表ができる
- ・音楽を楽しむガラス張りの場所があるとよい
- ・生活の中に、当たり前ものとして音楽がそこにある

## アートが日常にある



- ・色と空間で身体感覚を刺激するアート空間がほしい
- ・日常にアートを感じられる場所がよい
- ・図書館の静けささえも、音楽の一つとしてとらえることができる

## 災害時の避難場所として



- ・災害が発生したときには、地域の人の命を守る場所となる
- ・水や食料、電気の一時的供給場所
- ・地域の防災訓練や人助けの勉強、障がい者や高齢者への声かけ
- ・帰宅困難者の一時避難場所

# 発表の概要

イラスト  
ワークショップ参加者  
水野さん



コメント  
名古屋大学教授  
恒川先生



## A班



### ずっといたくなる空間

～いつも行きたい・何度でも行きたい～

私たち蒲郡市民がずっといたくなる空間は、子どもから高齢者まで誰もが行きたいと思う空間です。そういう空間は、市外の方々も訪れたくなる場所にもなり、新たな交流も生まれる場所になります。



環境配慮と自然の暮らしの視点があざやか! 自然・学び・食・芸術が空間でつながる提案がすてきです。



## B班



### もっと知ってよ! 蒲郡



市民や観光客に蒲郡市の魅力を伝えたいという思いです。①世代を超えた交流や町の魅力を発信する機会 ②自由で多様な憩いの空間 ③安心で気軽な交通環境整備によって、気軽に蒲郡市の多様な魅力を楽しめるまちづくりをしていきたいです。

蒲郡市の発信力を高め、憩いの空間を中心に、「〇〇したい」という担い手が集まる視点がよいですね!



## C班



### 子育てしやすく、みんなで学び合えるまち

子育て環境を充実させることが、まちづくりになると考えました。芸術や言語、技術など多様な知識を持っている人たちが相互に教え合える環境や仕組みを作ることで、子どもにとっては学校以外での学びや体験になり、老若男女、国内外の方が活躍できる蒲郡市になるのではないのでしょうか。



「子育てに役立つ図書館とは?」を迫ることで、いい施設、いいまちにつながりそうですね!



# D 班

# 開く



アートや建築・音楽が、オープンに「みせる・みられる」ことで、内と外をつなげることが重要と考えました。それには建築的にも利用する人々のこころも「開く」必要があります。移住者本人の思いから、気軽に、交流を深めるきっかけがあり、子どもと大人と一緒に体験や空間を共有できる施設にしたいです。

ソフトもハードも開くことで、日常的にアートや音楽のある場になる！それによってまた開かれた蒲郡になりますね！



# E 班

# こんな図書館だったら行くな♡



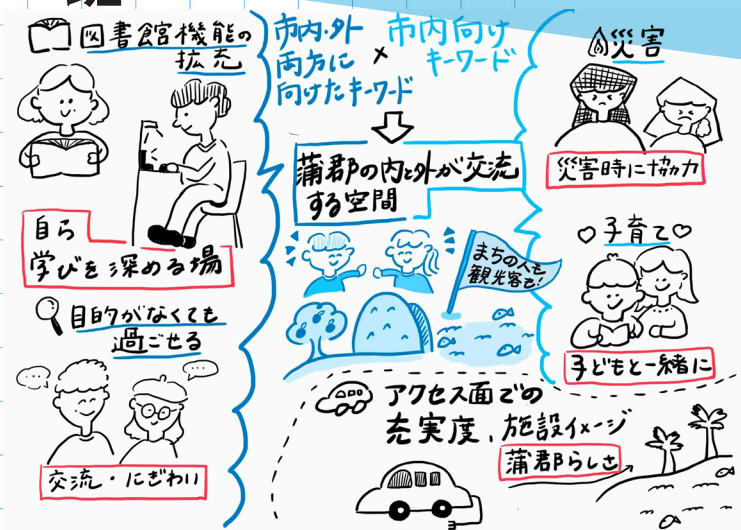
私たち一人一人が本当に利用したいと思う図書館を議論しました。ただ本を借りに行くだけでなく、ふらっと立ち寄ることができて、繋がりが生まれる居場所であり、今までにない機能がある、新たな形の図書館をつくりたいです。

多目的なホールやオープンスペースでつなぐなど、図書館が多世代の居場所になるアプローチを多様に提案いただきました！



# F 班

# 蒲郡ならではの 内と外が交流する空間



蒲郡市には多くの観光客が訪れるが、観光スポットのみの訪問になってしまいます。市内在住の人も市外からやってくる人も楽しむことができ、交流し、蒲郡を「知る」「味わう」ことが出来る空間にしたいです。

蒲郡の資源を生かした経済循環をつくるハブとしての観光拠点の視点がよいですね！



## 第2回市民フォーラムレポート

### 「文化香る蒲郡の公共施設を考えよう！」

基調講演：清水裕之先生(名古屋大学名誉教授、前岡崎市民会館芸術監督)



清水先生からはホールを含む公共施設についての先進事例を日本・世界、様々ご紹介いただきました。可児文化創造センターは、清水先生の研究室が携わり、基本構想から運営にわたるまで市民参加を徹底してきました。そこで大事な視点は「社会包摂」「地域の文化芸術を耕す」ということでした。文化芸術を育むには、舞台と客席といった発表の場だけでなく、創造の場、練習の場、文化芸術のアーカイブ、包括的にプロデュースする機能など、ソフトとハードで文化芸術を支えることが必要とのことでした。また、岡崎市民会館での高校生たちが創った、迫力ある舞台作品を動画でご紹介いただきました。最後には「地域の文化芸術」を育てることは、今からできます。やれることを皆さんでやっていきましょう！」と結ばれました。

後半は恒川和久先生(名古屋大学教授)をコーディネーターに、清水先生、平賀研也さん(前県立長野図書館長)、鈴木寿明市長を交え、シンポジウムが行われました。市長からは「8万人の人間味あふれる蒲郡らしい文化を育み、「音楽のまち蒲郡」としての場を市民が主役となって進めていきましょう」との呼びかけがありました。平賀さんからは「一人一人が思いを共有し、蒲郡の暮らしのシーンによりそう空間にすることが大切」とのことでした。また、ホールと図書館の機能をつなぐことの空間や行政組織等の課題についても、語り合われました。最後は安井秀夫先生(愛知工業大学教授)より「子ども時代蒲郡で育つことが、感性を育むことにつながるように、ハコをつくるのではなく、文化をつくりましょう。それには市民が「何をしたいのか」を語ることが重要です。」とのまとめがありました。

#### 参加者より ※アンケートより抜粋して掲載しています

##### 【1/21 市民フォーラムについて】

###### ①話題提供で印象に残ったことや感想

- ・公共施設の計画段階において、運営体制も同時に組織化することの重要性。ハコだけでは文化のまちにはならない。
- ・公共施設に対する新たな視点が得られた。
- ・「主役は市民」「人と人の結びを豊かにする」「うまく利用できるようにうまくプログラムを考える」「現場作業員と市民の交流イベント」
- ・1つのホールについてのプロジェクトだが、これからの蒲郡のまちづくりについて考えることであると気づいた。

###### ②運営について

- ・音声が聞き取りづらかった

(事務局より)

音響トラブルによりご迷惑をおかけしました。

##### 【2/25 ワークショップについて】

###### ①ワークショップに参加して

- ・違う視点からのアイデアがたくさん学べた。自分の気持ちを伝えられる喜びがある。
- ・みんな真剣に蒲郡のことを考えていて嬉しかった。

###### ②印象的だったこと

- ・お年寄りの方が特に子育てなどに言及していたのが意外であり、よかった。多世代間での交流を行うことは、需要・供給ともにあっても機会がないのだなと考えた。
- ・自分は音楽が溢れるまちにしたいということで参加したが、意見が似ていても考え方が違うと実感した。とても良いことで刺激を受けた。音楽と空間、人という話だけではなく、「元」の概念に囚われない」という話がとても印象に残っている。図書館は静かでなければいけない、演奏会・発表会では中だけでやるものという当たり前ではなく、改めて考えて、新しい空間、施設をつくることで場が開かれ、人がつながっていくことを教えていただいた。たいへん勉強になった。

- ・蒲郡を愛する人が多いと再認識できた。どのグループも「繋がり」や「居場所」というキーワードがあったように思う。子どもも大人も安心して暮らせる地域のコミュニティが作れるような公共施設になるとよい。
- ・子育てのリクエストがさまざまな課題解決に繋がっていること。

###### ③運営全般について

- ・子どもたちにもどんどん参加してもらい、さまざまな世代で議論を深めて欲しい。
- ・総論的意見が多く見られた。より個別かつ具体性のある意見を拾い、活用できるようにしてほしい。

#### 私たちが企画しています！ デザイン会議

外部有識者で組織し、コンセプトや基本構想・基本計画の内容検討を行っています。積極的に市民意見を取り入れるために、フォーラムや市民ワークショップを企画・運営しています。  
恒川和久 / 高野雅夫 / 安井秀夫 / 益尾孝祐 / 平賀研也 / 名畑恵

蒲郡市リーディングプロジェクト ニュースレター vol.2

発行日：令和5年3月

発行：蒲郡市公共施設マネジメント課

TEL (0533) 66-1214 / FAX (0533) 66-1183 / e-mail : k-mane@city.gamagori.lg.jp

協力：NPO 法人まちの縁側育くみ隊